

## 第 19 回（令和 2 年度第 5 回）学校運営協議会議事録

日時：令和 3 年 3 月 13 日（土） 9：30～11：30

Web 会議

### 出席者（敬称略）

#### 【委員】

- 飯島 正徳（東京都市大学知識工学部教授）
- 倉岡 正高（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）
- 高桑 誠（本校 P T A 会長）
- 鈴木 秀幸（青葉区大場町在住）
- 石井 廣康（横浜市資源循環局青葉事務所所長）
- 内川 隆（本校同窓会長）
- 田中 多恵（NPO 法人 ETIC. 横浜ブランチャーマネージャー）
- 福田 晴好（翔凜高等学校特別講師）
- 竹下 恭子（横浜市立市ケ尾中学校長）
- 瀬高真一郎（本校校長）

#### （欠席者）

- 田中 多恵（NPO 法人 ETIC. 横浜ブランチャーマネージャー）

#### 【事務局】

- 米田 朋正（本校副校長）
- 川島 秀生（同 教頭）
- 檜垣 桜子（同 事務長）
- 宮地 広（同 学校運営協議会担当）
- 諸岡 丈幸（同 学校運営協議会担当）
- 大矢 真（同 学校運営協議会担当）

#### 【本校各グループリーダー】

- 本屋敷隆裕（同 キャリア支援グループリーダー）
- 佐藤 淳（同 管理運営グループリーダー）
- 吉居 英明（同 生徒会支援グループリーダー）
- 佐野 英樹（同 地域連携・広報グループリーダー）

#### （欠席者）

- 吉行 伸（本校カリキュラム開発グループリーダー）
- 伊藤 和久（同 生徒指導グループリーダー）

## 1 委員紹介

石井委員

## 2 会長挨拶

## 3 校長挨拶

## 4 報告・協議事項 《委員○、学校●》

### (1) 学校からの報告

学校行事・入学者選抜・耐震工事・第三者評価について資料に沿って説明。

45期生の進路状況について、現時点での報告。

○コロナ禍での進路指導の方針を知りたい。

●推薦入試やAO入試を利用して受験する生徒が増えていく傾向もあり、本人の希望に沿って指導していくが、元々の方向性としては一般入試を目指すという指導方針である。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から臨時休業という形で始まった。そのため本来ならば体育館に生徒を集めて受験に関する説明会を行っているが、今年度はGoogle classroomに説明会の動画をupする等、生徒の不安を解消し安心感を与える工夫をしてきた。

○授業進度の速い私立高校の方が受験に有利であるが、市ヶ尾高等学校の結果は大変良いと感じた。

●休業期間中に授業の動画をGoogle classroomで配信した。特に4技能の習得に向けての対策をしてきたため、英語の力が伸びたと感じている。

○市ヶ尾高等学校の前の道路を挟んで反対側にある横浜市資源循環局青葉事務所では大雨の際0.5～3メートルまでの浸水の可能性があるため、様々な対策を市で決定した。市ヶ尾高等学校でも同様の被害を受けることが想定されるが、大雨の際の洪水対策についてお聞きしたい。

●本校が大雨の際の洪水の可能性があることは把握している。生徒の食料などは1階に置かないなどの対策はしているが、本校の構造上電気設備が1階に配置されているため、実際に災害が起きた際には一時的に電気機能が停止することが予想される。今後改善案を検討していく。

●確認したところ、本校の変電室は2階に設置されており、また校舎敷地からグラウンド側に降水が流れグラウンドが遊水地になる構造であるため、2階まで洪水が達する可能性はなく、電気設備については問題ない。

## (2) 令和2年度学校評価報告書について

1～5の五つの視点について、令和2年度から4年間の目標と本年度1年間の目標、成果と課題・改善方策等資料に沿って説明。

- 高校生活の中で人とのつながりが最も大切である。人とのつながりをどう育むかを目標に入れていただきたい。
- 本年度は制限が多くあったが、体育祭や文化祭などの高校でしか体験できない行事等は可能な限り実施してきた。次年度以降も生徒主体で行事などを進めていき、生徒のリーダーシップや主体性を育てていく。
- 働き方改革についてだが、定時退庁の調査結果はコロナ禍であるということが関係しているのか。また、教員のなり手が減少している。魅力的な職場にするためにも週に1回は定時で帰れるようにしていただきたい。
- 調査は年度当初から実施したかったが、11月からの4ヶ月しかデータとしてとれなかった。職員の中には定時退庁を意識していない職員がいるため、定時退勤を意識づけるのが今年度の目標としている。調査結果によると、週に1度は定時退勤しているという結果が出ている。今後目標をさらに高く設定していく。
- 定時退庁に関する調査結果は全県で同様であるのか。
- 他校の調査結果は把握できていない状況である。
- 市ヶ尾高等学校での生徒の感染者が出ていない。対策はどのようにしてきたのかお聞きしたい。
- 本校の学校医が丁寧に助言や指導をしてくれている。計画的な換気と手指消毒を行っている。また毎朝、生徒自身で椅子や机の消毒を行っている。健康観察も欠かさず行っているのと、各家庭の健康に対する意識が高いためである。
- 昨年度までは自転車の乗り方が危険であるという近隣からの声が多数上がっていたが、今年度は新型コロナウイルスの影響もあるのかそのような意見は減少したように感じる。自転車指導などを総合的な探究の時間を用いて、生徒自身にどうすべきかを考えさせてはどうか。また、地域との関係性がまだまだ希薄であると感じるため、防災対策などを通じて地域と共働していけたらと思う。
- 自転車指導は立ち番などをして指導を行っているが、未だ最善の策は出ていない状況である。地域連携の観点から警察署と連携し、生徒の意識づけを行う。防災に関しては、今年度いくつかの学校などを訪問しているが、連携の話が進んでいない状況であるため引き続き進めていく。
- 定時過ぎまで学校でどうしてもやらなくてはいけないことがそんなにあるのか。
- 生徒指導が本来業務である。部活動はアウトソーシングしていくなどの傾向があるが、生徒指導という観点からは本来業務と変わらないものである。仕事内容の精査はしていく必要がある。

- 報告書の達成状況の書き方について、「図った」「策定した」「取り組んだ」などではなく、目的をどれだけ達成できたのかを数値やデータとしてわかるようなものをエビデンスとして入れていただきたい。
- 可能な限りエビデンスを入れるなど修正できるか等の検討をしていく。
- 市ケ尾高等学校とは今後の連携について検討した。最近青葉コミュニティテラスができた。そこで市ケ尾高等学校の生徒が個人的に活動しているのを目にした。3年間続いた市ケ尾ユースプロジェクトが一旦終了しているので、何か別の形でも地域との関わりができるようなことがあるとよいと思う。コロナ禍で難しい状況であるが、市ケ尾中学校では近隣の小学校や他の中学校とSDGsについての会議行っているので、できる範囲で何か連携する必要がある。
- 進路支援の一環として職業分野別説明会を行っているという話があったが、職業に対する認知がされ、将来の目標についての考えが形成されるのが高校生の時期であると思うので、その基盤を作って頂きたい。大学生でも8割が将来何をしたいのかわからないという現状があるため、市ケ尾高等学校で行っている職業分野別説明会について知りたい。  
「生徒による授業評価」の集計結果について、「5他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。」が低いので、同窓会を活用し、気軽に職業について話を聞けるような機会を増やしてほしい。働き方改革については魅力的な職場にしなくてはならないと思うので、教員が楽しく授業をしている姿を生徒に見せ続けていただきたい。
- 職業分野別説明会について、将来の目標を持っている生徒は少ない印象がある。本校生徒のほとんどは進学を希望しているが、その後の進路とリンクさせてほしいという思いから、一年生では説明会を行っている。生徒1人に対し、平均2分野の説明を聞くことができた。二年生には進路別説明会を行っている。

### (3) その他 学校運営協議会意見申出について

学校運営協議会と第三者評価の位置付けと、「生徒による授業評価」の評価項目の選択肢について、本校の実情に沿わないのではないかと、という2点について県教育委員会に質問した件についての資料に沿って説明。

- 学校運営協議会と第三者評価の立ち位置が異なるなどの構造的な面での回答であった。第三者評価での内容を学校運営協議会でどのように解釈し、活かしていくのかが知りたかったがそれに関する回答は得られなかった。授業評価については、授業評価の報告書が添付されてきた。このような資料は参考になった。
- 県からの回答にある授業評価の質問項目の「4十分に」「3ほぼ」であればある程度わかりやすいが、生徒への質問項目であった「4かなり」「3ほぼ」ではわかりにくいのではないかと。生徒たちはこの2つの違いを理解せずに回答していると思うので、もう少しわかりやすいガイドがあると良いのではないかと。

## 5 次年度の学校運営協議会について

退任者挨拶

福田委員 倉岡会長